

第1部会 「地域の参画、協働による教育部会」

テーマ 子どもたちの規範意識・社会性の向上に資する地域コミュニティの再構築と生涯を通じる教育理念を考える。

I オープンセミナー

- 日時：平成24年10月17日(水) 10:00～11:00
- 会場：県立教育研究所
- 講演：「日本人をつくった教育 ～教育の再生～」
同志社大学大学院教授 沖田行司氏
- 参加者：幼保、小・中・高等学校、大学等学校関係者
県及び市町村教育委員会関係者 等 計270名



講演内容

- ①今日的な課題 ②庶民の子どもの学び ③武士の子どもの学び
- ④儀礼・年中行事の教育的意味 ⑤結び

- ①教育の原点は「子ども」を「おとな」(一人前)にすることである。
- ②地域や家庭が、子どもを大人にする機能を無くしてしまったのではないか。地域や家庭が本来有する機能を果たした時、学校は本来の機能を発揮できる。
- ③「成らぬものは成りません」(だめなものはダメ)と言うためには、大人に自信があり、共通の規範が存在する必要がある。学校・家庭・地域で1つの価値が共有されることで、誰に対しても「成らぬものは成りません」と言えるのである。
- ④「教え」の過剰が、子どもの主体的な「学び」の意欲を減退させているのではないか。「教え」と「学び」のバランスが問題である。
- ⑤大人社会が子どもの社会に必要以上に介入し、子どもの自主的で自治的な組織を壊していないか。
- ⑥地域で子どもが自由に学び、自己を確立していく場を、社会や地域の中で、どう生み出していくのか仕掛けづくりが重要である。
- ⑦子どもの主体性や自立性を高めるために、社会・地域が持つ教育機能を改めて考える必要がある。
- ⑧奈良県が進めている学校コミュニティの方向性や取組は、評価できる。
- ⑨奈良には歴史や古い文化があり、その文化と関わって成長していくことができる恵まれた環境がある。これらを取り入れ、教育に生かすことが大事。

II 部会協議

オープンセミナーの後(11:00～12:00)、初会合

報告

- ①地域教育力サミットの経緯について ②学校をベースとした地域コミュニティの再構成について ③教育理念の構築について

- 「地域と共にある学校づくり」を目指して、本年4月より、県教委が新たに取組を進めている「学校コミュニティの仕組みづくり」とモデル校について紹介。
- 全国調査等の結果をもとに、本県の教育課題(学習意欲の向上、規範意識・社会性の醸成、体力の向上)について説明。教育理念の策定は、平成25年度中を予定。第1部会で議論した内容をサミットで報告しさらにサミットでも議論していくことを確認。

協議内容

- 協議の柱 ①社会・地域がもつ教育機能について ②子どもの主体的な「学び」を育てる地域の関わりについて

- ①保護者が子どもに対して、すぐに現れる効果を求める傾向にあり、子育てにゆらいているように感じられる。地域の中の自分という意識が薄まっている部分がある。
- ②保護者を対象とした教育活動が必要。保護者をあわせて教育する時代。子育てに悩んでいる方が多いので、行政の立場から、保護者に対する教育や地域と連携した活動を行っていく必要がある。(沖田委員)
- ③幼稚園では、子どもの「学び」を豊かにするため、地域の教育力を取り入れ、保育活動に生かしている。昔遊び等を地域の方から教えていただいたり、人との関わりを学んだり、その楽しさを学ぶ活動を実施している園が多い。
- ④地域が連携・協力してくれる体制はとれてきているが、今の時代、もう一歩進んで、計画段階から地域の方に参画していただくことが大事なのではないか。
- ⑤保護者と地域の関わりには地域性があり、親同士のコミュニケーションがとれている地域とそうでないところと二分化されている。そのあたりが、地域教育力サミットの重要なポイントではないか。

